

平成 11 年 3 月 6 日

## たくさんの仲間が巣立っていった…

# 高田中学校ほか区立小・中 4 校で閉校式

本日 6 日、豊島区立の高田中学校（目白 1-1-1、昭和 22 年創立）、雑司谷中学校（南池袋 3-18-12、昭和 24 年創立）、要町小学校（要町 2-3-20、昭和 3 年創立）平和小学校（千早 2-39-3、昭和 29 年創立）の各校で閉校式が行われた。

少子化や人口の流出などを背景に、豊島区の児童・生徒数は昭和 30 年代をピークに減少しつづけ、学校の小規模化が急速に進んだ。こうした状況の中、学校規模の適正化を図るため、区教育委員会は「区立学校の適正規模に関する審議会」の答申（平成 4 年 4 月）をうけ、平成 9 年 1 月、「豊島区立小中学校の適正化第一次整備計画」を策定、小学校 29 校のうち 11 校を 5 校に、中学校 13 校のうち 6 校を 3 校に統合する計画を進めてきた。今回の 4 校の閉校は、この計画の端緒として小中それぞれ 2 校が統合され、新たに要小学校（現要町小学校跡に設置）、千登世橋中学校（現雑司谷中学校跡を仮校舎として設置、現高田中学校跡に新校舎建設）として開校されることにより、今年度をもってそれぞれの歴史に幕をおろすこととなったもの。

この日、高田中学校（沼本禧一校長）では、閉校式典を前に、保護者・学校 OB・地域の人達などに最後の授業を見てもらおうと、各クラスで公開授業を行った。ネイティブの先生を交えた英語の授業では英会話のゲームで盛り上がり、理科室では電磁誘導で「フレミングの左手の法則」の説明に、生徒達から活発な質問が出され、何事にも積極的に取り組むという同校の校風が随所に見られる楽しい授業がくりひろげられた。見学者も、保護者のほか、5 年前に卒業したという同窓生やかつてこの学校の教壇に立っていたという教師 OB 等が懐かしそうに各教室を回っていた。午前 10 時からの閉校式典では、在校生を代表して前生徒会長の須田宏美さん（3 年）が「高田中学校の生徒であったことを誇りに思います。人と人とのつながりの大切さを学び、多くの人たちとの多くの思い出の詰まった学校がなくなってしまうことはとてもさびしいが、新たな学校への期待が胸の底から湧いてきます。ありがとう、そしてさようなら…」と、別れの言葉を述べた。続く第 2 部では、同校の歴史をまとめたビデオ『52 年のあゆみ』の上映、次に生徒達による朗読では、学校誌『目白台』に掲載された詩が中国語、英語、手話をまじえて披露され、全校生徒による合唱、ブラスバンド演奏と続き、生徒、職員、さらに列席者それぞれの想いで会場が包みこまれた。

また式典終了後には、52 年の長い間学校を見守ってくれた地域への感謝をこめ、生徒達による地域清掃が行われた。

平和小学校（永瀬隆行校長）でも、閉校式典を前に生徒達によるお別れ会が校庭で行われ、一人ひとりの児童に校長先生から自筆の色紙が贈られた。式典では、全校生徒が壇上に並び、別れの言葉から合奏、合唱と、全員の息もぴたり合い、思い出多い校舎に子どもたちの声がこだましていた。

**問い合わせ：高田中学校**